

学会の沿革

1988年8月 CELSS研究会が発足（第1回総会）し、1993年5月 日本学術会議にCELSS学会として名称登録しました。2001年9月は 生態工学会に名称変更を行い、現在に至っています。この間、近藤次郎（日本学術会議会長（当時））、不破 敬一郎、相賀一郎、新田慶治、玉浦 裕、大政謙次、竹内俊郎、木部勢至朗、北宅善昭、2021年より船田 良が会長を務めています。

学会からの5つの約束

1. **ニーズに対応ビジネスに直結**
産・官のニーズへの提案に対応した大学や研究者情報を提案し、仲介役を積極的に担います。
2. **ビジネスに直結**
常に企業のビジネスに結びつく話題提供を行います。
3. **早い投稿論文審査**
投稿者にとって迅速で役に立つ論文査読を行います。
(審査の速さには定評があります)
4. **研究者育成**
学生や若手研究者の研究活動を積極的に支援・表彰し、研究者を育てます。
5. **年会費**
入会初年度の正会員の年会費を半額にします。(年会費 8,000円が4,000円になります)

学会からの情報発信

- ・ 学会誌「生態工学
(英名: Eco-Engineering)」
(年4回(1, 4, 7, 10月)発刊)
- ・ SEE Quickニュース
- ・ 年次大会
(例年6月開催)
- ・ 定例研究会 (年3回)
- ・ シンポジウム



■第11期役員名簿（2021年7月より2年間）

会長	船田 良
副会長	齋藤高弘、谷 晃、寺添 斉、横谷香織、 渡邊博之、増田篤稔、宮嶋宏行、細井文樹
特任理事	泉谷直昭、大政謙次、木部勢至朗、竹内俊郎、 玉浦 裕、中林和重、西崎進治、水谷 広、 皆川秀夫、北宅善昭、白石文秀
総務理事	渡邊博之、土肥哲哉
庶務理事	田村治美（総務担当）、新井竜司（企画担当）、 遠藤雅人（編集担当）、石神靖弘（表彰担当）、 萩原昌司（広報担当）、石川洋二（国際担当）、 高山弘太郎（産学連携 担当）、 新井真由美（次世代科学社会活性化担当）、 谷 晃（将来構想担当）、篠原正典（CELSS 担当）、 広崎朋史（宇宙事業推進担当）
会計理事	田村治美
企画理事	寺添 斉、新井竜司、大橋敬子
表彰理事	細井文樹、石神靖弘
広報理事	齋藤高弘、萩原昌司
国際理事	石川洋二、大野英一
編集理事	宮嶋宏行、遠藤雅人、中根昌克
産学連携理事	伊能利郎、高山弘太郎
次世代科学社会活性化理事	横谷香織、新井真由美
出版企画理事	大政謙次、清水 庸
将来構想担当理事	谷 晃、遠藤良輔
CELSS担当理事	桜井誠人、篠原正典
宇宙事業推進担当理事	広崎朋史
循環型社会構築担当理事	北宅善昭
支部活動推進理事	
北海道・東北	支部長 石川義朗
関 東	支部長 増田篤稔
東 海	支部長 武田美恵
関 西	支部長 伊能利郎
中国・四国	支部長 羽藤堅治
九州・沖縄	支部長 安武大輔



生態工学会のロゴマーク
人間を中心に、エネルギー源である太陽と技術を象徴する歯車を描き、周囲に生態系を構成する動物と植物を配置したものです。

生態工学会事務局

〒1162-0814 東京都新宿区新小川町5-20
サンライズビルII 3階 生態工学会事務局
TEL : 03-3528-9841 FAX : 03-3528-9842
e-mail : office@see.gr.jp
URL : <http://www.see.gr.jp/>

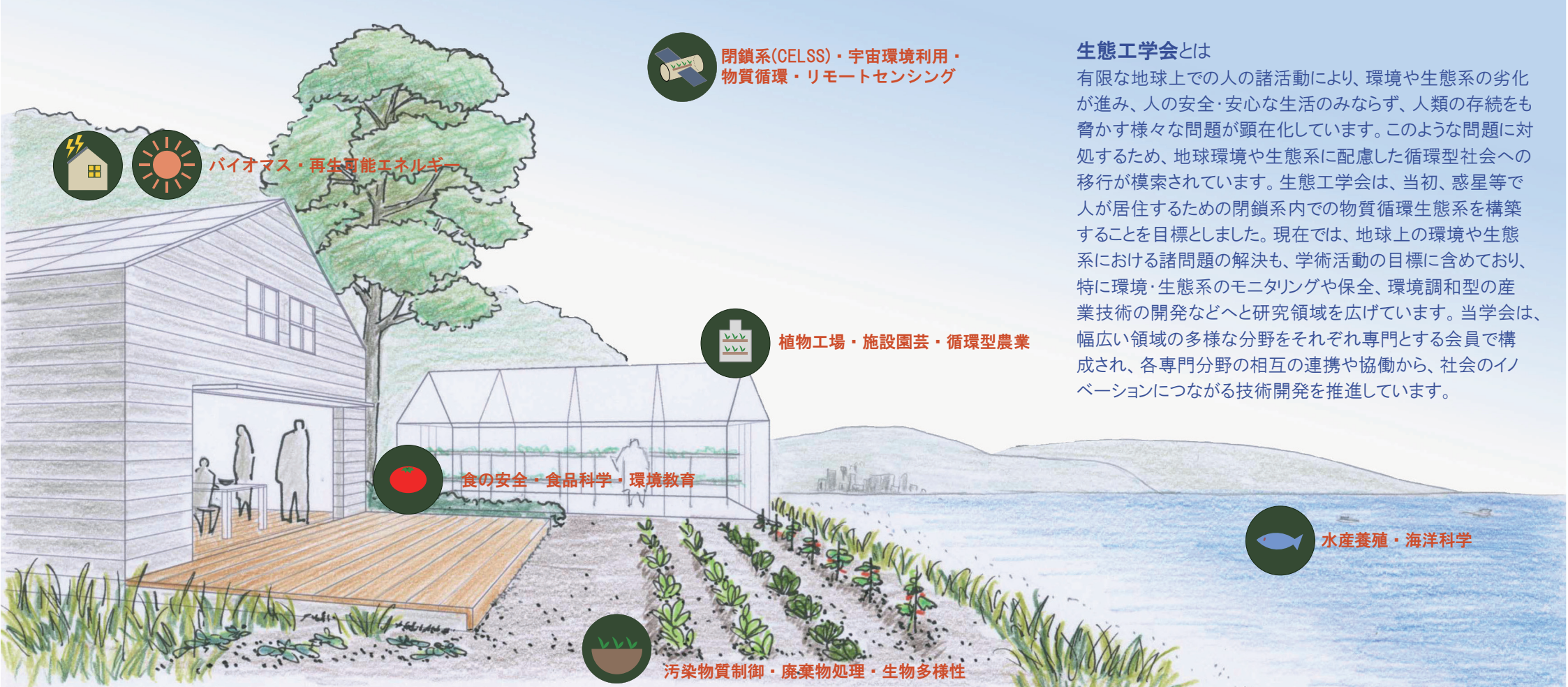


The Society of Eco-Engineering Since 1988

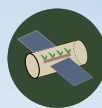


生態工学会

URL : <http://www.see.gr.jp/>



バイオマス・再生可能エネルギー



閉鎖系(CELSS)・宇宙環境利用・物質循環・リモートセンシング



植物工場・施設園芸・循環型農業



食の安全・食品科学・環境教育



汚染物質制御・廃棄物処理・生物多様性



水産養殖・海洋科学

生態工学会は、生態系に関わる工学や農学などの広い分野を活動の領域にしています。

■閉鎖系(CELSS)・宇宙環境利用・物質循環・リモートセンシング
月や火星での長期滞在に不可欠な食料生産、空気・水浄化、物質リサイクルなどの閉鎖生態系生命維持システム(CELSS)の構築や地球環境での物質循環やリモートセンシングのための研究を行う。

■食の安全・食品科学・環境教育
食品の品質分析や健康機能性、食品製造における衛生管理や品質管理技術、生産履歴を保証するトレーサビリティシステムなど関する研究や新技術の開発、そして食育を通じた豊かな食文化の維持に貢献する研究を行う。

■バイオマス・再生可能エネルギー
再生可能な生物由来資源であるバイオマスや自然界に常在し枯渇しない太陽光、風力、地熱などの非化石エネルギーを効率的かつ持続的に利用するための材料・システムの技術開発や社会実装のための研究を行う。

■植物工場・施設園芸・循環型農業
栽培環境を制御した施設園芸や植物工場において、低コストでエネルギー負荷が低く、かつ高効率な作物栽培システムの開発研究を行う。また、地域資源や再生可能エネルギーを活用した循環型農業の研究を行う。

■水産養殖・海洋科学
水圏における生態系や物質循環を理解し、持続的な環境保全と安定的な食料生産を両立する水産養殖の技術や豊かな海を創出して資源利用する海洋科学について研究を行う。

■汚染物質制御・廃棄物処理・生物多様性
多様な生物が棲む地球環境の保全や、汚染物質の発生を少なくする技術開発、発生した汚染物質の制御・処理技術、廃棄物の再利用を可能にする研究を行う。

生態工学会とは

有限な地球上での人の諸活動により、環境や生態系の劣化が進み、人の安全・安心な生活のみならず、人類の存続をも脅かす様々な問題が顕在化しています。このような問題に対処するため、地球環境や生態系に配慮した循環型社会への移行が模索されています。生態工学会は、当初、惑星等で人が居住するための閉鎖系内での物質循環生態系を構築することを目標としました。現在では、地球上の環境や生態系における諸問題の解決も、学術活動の目標に含めており、特に環境・生態系のモニタリングや保全、環境調和型の産業技術の開発などへと研究領域を広げています。当学会は、幅広い領域の多様な分野をそれぞれ専門とする会員で構成され、各専門分野の相互の連携や協働から、社会のイノベーションにつながる技術開発を推進しています。

